教材研究ノート№3-A-9

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・何倍をかけ算ととらえて立式する方法を理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・「3倍の2倍は6倍」のように，全体が何倍かは倍にする数のかけ算で求められることを学習している。

○共同追究でのゆさぶり

・かけ算で結合法則を使って考える学習は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・順序よく調べることと全体で何倍か考えることの，どちらの考え方でも求められることを経験している。

≪学習問題≫

ジャングルジムの高さは2ｍです。木の高さはジャングルジムの3倍，校しゃの高さは木の高さの2倍です。

校しゃの高さは何ｍですか。

≪学習問題≫



主眼

授業計画･実施記録

②見通し:「倍」が2回でてくる問題を考えたことがあった。

→順序よく調べたり，全体で何倍か考えたりすればよさそうだ。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題:木の高さから順序よく調べたり，全体が何倍か考えたりして，校しゃの高さを求めよう。

③個人追究:高さの関係を図に表して追究し，説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「2つの説明の違いは何だろう？」

→「一方は2×3を6に，もう一方は3×2を6にして計算している。」

④共同追究後半（思考を深める）

「それぞれの式を1つの式にまとめられないだろうか？」

→「一方は6を2×3に戻せば2×3×2で，もう一方は6を3×2に戻せば2×（3×2）となる。」

「先に木の高さを求めるか，校舎がジャングルジムの高さの倍かを求めるかの違いなので，どちらも等しい。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・順序よく調べても，合わせて何倍かを先に求めても，求められることがわかった。

・かけ算の式では，計算の順序を入れ替えてもよい。

⑥定着･活用問題

(1) 2とおりのしかたで計算しましょう。

(ｱ) 3×2×4　　(ｲ) 2×5×2　　(ｳ) 3×4×5

(2) １こ40円のドーナツを，1はこに2こずつ入れてもらって，3はこ買いました。みんなで何円になりますか。2とおりのしかたで求めましょう。

≪定着・活用問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・共同追究では，問題文，関係図，式，解き方の説明を丁寧に対応させる活動を行い，式中の2が2倍なのか2ｍなのか区別できているかなど，よみとりのチェックポイントを設定するとよい。

・単にかけ算の結合法則が成り立つことを理解するだけでなく，結合法則を用いて計算するよさを実感させることが大切であるという観点から，定着問題を吟味したい。

【板書計画】